

政策会議 議事概要

- 1 日 時 令和元年5月9日(木) 14時30分～15時35分
- 2 場 所 第一会議室
- 3 出席者 市長、副市長、総務局長、総合政策局長、財政局長、総合政策部長、
並びに所管局長、所管部長
- 4 議 題
グリーンツーリズムの推進(乳牛育成牧場のあり方)について【方針決定】
(経済農政局経済部、農政部)

[審議事項]

- ・ 集客の核施設を、乳牛育成牧場廃止後の跡地を活用し、預託事業を含めて民間活力を導入する形で、整備するとともに、周辺施設整備やプロモーション等の関連事業を実施する。
- ・ 公の施設である乳牛育成牧場を、2020年3月末をもって廃止することとし、所定の議案等を2019年第2回定例会に提案する。

経済部長

～資料に沿って説明～

(質問・意見等)

財政局長

3点質問がある。まず1点目。

第2回定例会で債務負担行為を設定することについて、事業スケジュール上、解体事業は補正予算で必要だが、それ以外については、募集要項で「別途、市との協議により財政支援できる」と明記すればいいのではないかと。事前に具体的な金額を明示する必要はない。

2点目、富田さとにわ耕園の整備について。1点目と同じだが、事業者の提案を基に協議し連携した上で整備をしなければ、手戻りが出るのではないかと。6月補正の必要性がない。

3点目、酪農家への代替補助について、事業見直しの経過措置の通例は2～3年。酪農家の特殊性を考慮しても長くて5年。10年は長すぎる。再考してほしい。

経済部長

1点目。公益性があるという根拠は、地域未来投資促進法の基本計画に観光牧場化を位置付けたい。国(経産省)と協議している。

事前に額を決めなくてもいいのではないかとのことだが、国の交付金の事業スキームに準じているので一定の根拠がある。

2点目の富田さとにわ耕園については、現状での老朽化が激しく、原田池等の安全対策は必須であり、その整備は必要。

農政部長

現在、乳牛育成牧場の預託事業を利用している酪農家は13軒ある。今後も酪農を継続していくための経過措置として、10年間は必要。この間に大規模化や経営の効率化を進めてもらう。

財政局長

1つ目は千葉市が事業者の提案に税金投入するかどうか判断できた段階で予算化

すべき。2つ目の補正理由は、老朽化対策だけでは厳しい。3つ目は予算で議論したい。

- 市長 財政局長の指摘事項でのデメリットはあるのか。
- 経済農政局長 デメリットは生じない。市が先導的にやっていく姿勢を民間事業者に示したい。
- 市長 企業誘致の場合のように制度設計するか、自由提案で公募してもらい内容に応じて債務負担行為を設定するかのどちらかだ。
- 財政局長 市が別途協議・提案内容により財政支援できると記載すれば、市としての姿勢は見せられる。
- 経済農政局長 この件については、再考する。
- 市長 富田さとにわ耕園の整備についても、提案がない段階では厳しいのでは。
- 経済農政局長 GW中の来場者は、昨年度2万人、今年度は2.7万人。今回の事業の件もあるが、現段階で老朽化が進んでいるので、合わせて対応したい。
- 服部副市長 緊急性があっての対策ではないので、難しい。
- 市長 老朽化対策については、既存の予算内で行い、事業者の提案内容に合わせて行う事業については、合わせて計上したほうがいい。
- 3つ目の預託の10年の経過措置の妥当性はあるのか。
- 現在、北海道に預託している酪農家について補助はしていない。乳牛育成牧場に預託している酪農家に対してのみ補助する理由はあるのか。
- 現在の市の預託事業は30万円、民間事業者、北海道、県の預託料はいくらか。
- 経済農政局長 牛の生育は預託に1.5年かかる。通常よりも長いスパンで考えながら、期間の設定をすることが必要。
- 市の預託事業をやめて、民間事業者が代替する際の値上がり分の差額を補助しないと理解を得られない。
- 民間は50万円以上。北海道など遠距離の場合、さらに輸送料が必要。県は30万円程度だが、受入枠がない。
- 市長 事前の周知もしているので、3年～5年が限界。元々は預託料の不公平感から見直しを指示した。どこに預けても補助するのが、公平な畜産支援ではないかというのがスタート。そこは守ってほしい。
- 経済農政局長 今後見直す。
- 市長 その際、どこに預けても変わらない預託補助制度を、生産能力を上げるような乳牛系の設備投資などに対する補助制度に変えたほうがいいのではないかと。
- 総合政策局長 公募について、市がエリアとして考える部分はどのようにするのか。公募条件はどのように考えているのか。また、施設オープン時期に合わせて、市としてエリアで打ち出す施策が必要ではないか。
- 経済部長 地域、関連施設との連携を要件にする。
- 一般的な要素に加え、文化・歴史の要素を加えていきたい。見るアート・自分で体験するアートを一体的に作っていきたい。
- また、昨年度、グリーンエリア単独でのプロモーションに取組み、リーフレットを作った。オープンに合わせてさらに充実させていく。
- 市長 1泊2日を想定すると、どの程度の行動範囲になるのか。観光業界で常識的に考えられる範囲は。佐倉や八街の観光資源も踏まえ、エリア認識はどのように考えてい

るか。核を中心に市域を考えず行動範囲を設定し、観光資源をピックアップしていく必要がある。

経済部長

現状のグリーンエリアの設定は、若葉区・緑区と市原市。

乳牛育成牧場を中心にする、加曽利貝塚・市動物公園・ホキ美術館・東京クラシッククラブ・イチゴ狩り、川村美術館がエリアの範囲内にあることを認識している。

経済農政局長

佐倉は、「麻倉」という地名から来ている。麻が一つのコンテンツ。また、江戸時代からの佐倉牧が有名。千葉牧という括りでみれば、佐倉や八街や千葉が入ってくる。酒々井町は「房総の牧」で文化庁の日本遺産の登録を目指している。周辺施設も含めて、コンセプトを持った形でのエリア設定をする必要がある。

まずは、事務レベルで各市担当課と協議したい。

市長

ゾーニングや地域総称を作してほしい。「いずみ」は狭い。共通のイメージ化がされるエリア名称を作らないと厳しい。オープンの時期までに作してほしい。

拠点施設であれば、それを中心としたゾーンを考え、このようなコンセプトの中でブランディングをやっていく必要性があり、文化的な要素もある。全庁的に実施する内容にしてほしい。

市長

富田さとにわ耕園について指定管理期間中に駐車場を有料化できないのか。

農政部長

今現在の指定管理者では難しい。2022年3月までが期間。

服部副市長

乳牛育成牧場がオープンしたら、無料と有料の併存はありえない。

市長

観光牧場が有料駐車場とするのであれば、オープンに合わせて指定管理期間中に有料にせざるを得ない。収入を施設に還元するという明示をしていくべきだと思う。

総務局長

グリーンツーリズムに関して、この地域の方々や酪農家の反応はどうか。

経済農政局長

公の施設廃止については理解を得られており、グリーンツーリズム推進に協力的な人もいる。

市長

相当のシェアをもつ畜産について市民に周知できていないので、単なる観光だけでなく、千葉市の酪農・畜産の認知度を上げていくためにもブランディングが重要であり、大事な政策だという打ち出しが必要。

— 結果 —

予算面のスキームについて変更する前提として、方針を決定する。

5 照会先

- ・会議の運営等について

総合政策局総合政策部政策調整課

TEL 043 (245) 5057

- ・議題について

経済農政局経済部経済企画課

TEL 043 (245) 5302

経済農政局農政部農業生産振興課

TEL 043 (228) 6276